

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04900

研究課題名（和文）女子大学生のための「お金」の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの開発

研究課題名（英文）Development of Career Education Curriculum Incorporating the Perspective of 'Money' for Female Undergraduate Students

研究代表者

西尾 亜希子（Nishio, Akiko）

武庫川女子大学・共通教育部・教授

研究者番号：20550627

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：女子大学生のための「お金」の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラム案について勤務校（女子大学）の授業等を通じて検証し、問題点を探った。

次に、その他に問題点がないか調べるために、米国の州立大学（共学大学）の授業でそのカリキュラム案を使用した。

結果、学生のジェンダー、年齢、職歴などの属性（背景）の多様性が、そのまま多様な生き方の志向につながったり、逆に志向することをあきらめざるを得なかったりする状態につながっていることがわかった。その結果は、日本の女子大学生のみの研究ではわからなかったことだが、多様化する大学生の包摂という視点もカリキュラム開発の上で必要な視点であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

概して、女子学生は（生涯）キャリアについて考える時、結婚、出産、育児等については考えるが、その際に「お金」の視点が欠けているのではないかという問題意識から、本研究は行われた。そのため、「お金」の視点を組み込んだキャリア教育カリキュラム案を作成し、授業で活用したり、海外の多様な背景をもつ大学生にどの程度通じるものか試すために、アメリカの大学でも活用を試みた。その結果、キャリアについて考えることに消極的な学生が少なくなく、彼らに考えることを強いており、精神的に追い詰めていると判断せざるを得ない場面があった。学生の多様化と社会変化を「予測」しつつ、カリキュラム案を考える必要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）： Firstly, the tentative idea of the curriculum of career education from the perspective of 'money' which Nishio had developed was used in the several classes at the women's university she worked for and there were few problems in the trial process.

The idea was, then, used in two classes at a state university in the U. S. and double-checked if it would work well for other undergraduate students with various backgrounds such as genders, ages, and working experiences.

As a result, there was an important implication which suggested the necessity to pay attention to the diversity of students more than ever before and of a further discussion on the inclusion of those students to the curriculum development.

研究分野：教育社会学

キーワード：女子大学生 キャリア教育 お金の視点 学生の多様性

1. 研究開始当初の背景

女子学生が将来の経済的リスクを軽減するためには、結婚してもしなくても「生涯就業」を意識して自らを守る必要性が高まっていると思われた。その理由として、男女ともに(1)1990年代半ば以降、15-64歳の全年齢で非正規雇用化が進んでいること、(2)60歳までフルタイム労働を続けた大卒者の場合であっても、生涯賃金が低下していること、(3)非婚化が進行しており、結婚できるとは限らないことなど(厚生労働省 2013)。急速な社会変化があった。しかし実際は、この間一貫して女子学生の間では「ラク」と「自由」志向、そして「家庭志向」が強まっていることが指摘されていた(谷田川 2016)。「『責任領域』としての家庭に逃げ込んで、職業キャリアの成熟を『考えないことにする』という悪循環」(岩田・大沢 2015, 224-225)が起こっているという指摘もあった。そのため、今日のキャリア教育はこの「社会の現実と女子学生が抱く理想のミスマッチ」の解消に役立っていないのではないかという疑問があった。

実際、教育現場について考えると、女性のキャリアパスは男性のものとは異なるという観点から、女子大学を中心にジェンダーを意識したキャリア教育が行われてきたが、キャリア教育科目でお金の視点を持つものは少なく、ジェンダーの視点を持つ科目についても同じ問題があると思われた。

一方、経済・経営系学部を中心にパーソナル・ファイナンス教育(以下「PF教育」)は行われているが、取り扱い領域が「貯蓄や資産運用、ローン、年金、保険、税金、相続などの金融活動とそれに関連する市場や取引、商品サービスなど」(古徳 2006, 24)と広い上、専門的な知識も必要なため、大学に広げる場合は指導者の確保が課題となっていることが予測された。このような現状を受けて、北川(2011)は、大学ですでに導入されているキャリア教育にPF教育の一部を組み込むことを提唱していた。

女子学生の場合、「キャリアとお金の分離問題」が深刻であることは明らかであったため、解決のためにジェンダーの視点を持つキャリア教育に、北川(2011)が提唱するようなPF教育を導入することは教育効果の面からも理にかなっていると思われた。

2. 研究の目的

女性の雇用の現状などジェンダーの視点を持つキャリア教育に「お金」の視点を導入することによって、女子大学生に「生涯就業」の必要性の高まりを実感させ、就業力を育成するキャリア教育カリキュラムを開発することにあつた。

3. 研究の方法

(1)日米のジェンダーの視点を持つキャリア教育、大学における消費者教育、パーソナル・ファイナンス教育の動向に関する先行研究や資料の渉猟および整理、(2)日米の女子大学および共学大学のジェンダー研究者によるジェンダーの視点を持つキャリア教育科目のシラバスの精査、(3)日本FP協会関係者らに対する女子大学生や女性一般に必要なとされるファイナンスの項目や望ましい教育手法の聞き取り、(4)お金の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの開発の順で実施した。

4. 研究成果

米国の有名女子大学の金融教育の担当者らに対する調査結果をもとに、女子大学生のための「お金」の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラム案を作成し、勤務校(女子大学)の授業等を通じてその有効性を検証し、問題点を探った。

次に、学生の多様化など、広い視野からカリキュラム案を見た場合に、大きな問題点がないか調べるために、米国の州立大学(共学大学)の授業でそのカリキュラム案を使用した。

その結果、学生のジェンダー、性的指向、年齢、職歴、障害の有無などの属性(背景)の多様性が、そのまま多様な生き方の志向につながったり、逆に志向することをあきらめざるを得なかったりする状態につながっていることが示唆された。特に障害の有無については、当該学生に直接尋ねることができなかったため、断定はできないが、そうした属性も学生のキャリア観に強く影響を及ぼしていたと考えられる。また、そのために、一概に大学生に「生涯就業」の必要性を実感させたり、就業力の育成しようとしたりすることが良いとは限らないこと、いいかえれば、「学生のため」と思って実施する教育が、かえって彼女ら・彼らを精神的に不安定な状態に追い込む危険性があることがわかった。それはある学生が放った「理想をいったところで、どうせ叶わないのに、何かいう意味がある？」ということばに端的に表れていた。

日本の女子大学生のみを対象とした研究では十分わからなかったことだが、米国の大学の大学の大

学生を対象とした研究結果により、大学生が多様化すればするほど、キャリア教育の目的が曖昧になり、これまでの教育内容のあり方も変更を余儀なくされることが示唆された。同時に、多様化する大学生の包摂という視点が「規範としては」不可欠であることも示唆された。

一方で、全学生に照準を合わせることは不可能であり、そうであるならば、誰に照準を合わせるのか、照準を合わせるができない学生はどのように対応するのか、そもそもそのような方法で良いのかなど、さまざまな議論が必要であることもわかった。それは突き詰めて考えれば、一斉授業におけるキャリア教育は成り立つのかという議論にも発展するため、今後も多様な視点からの、さらなる研究が必要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 西尾亜希子	4. 巻 48
2. 論文標題 「女性にとっての職業資格の経済的効用および非経済的効用 - 女子大学で取得可能な国家資格を中心に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 武庫川女子大学教育研究所 『研究レポート』	6. 最初と最後の頁 103-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松並知子・西尾亜希子	4. 巻 32
2. 論文標題 女子大学生のキャリアプラン選択の規定要因 稼得意識、進路選択に対する自己効力、自尊感情、職業観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸女学院大学『女性学評論』	6. 最初と最後の頁 25-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松並知子・西尾亜希子	4. 巻 第32号
2. 論文標題 女子大学生のキャリアプラン選択の規定要因 稼得意識、進路選択に対する自己効力、自尊感情、職業観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸女学院大学『女性学評論』	6. 最初と最後の頁 25-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西尾亜希子	4. 巻 第48号
2. 論文標題 女性にとっての職業資格の経済的効用および非経済的効用 女子大学で取得可能な国家資格を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 武庫川女子大学教育研究所 『研究レポート』	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 西尾亜希子
2. 発表標題 アメリカの大学生のライフプランに見るキャリア教育の課題 - 西部X州立大学の学生が作成したライフプランの分析を中心に
3. 学会等名 日本教育社会学会第71 回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西尾亜希子
2. 発表標題 女性のキャリア形成教育構想 ライフプランの視点を取り入れる必要性
3. 学会等名 京都文化創生機構「フォーラム 男女平等と少子化抑止への対応」（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Nishio, A.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 FACE, University of East London	5. 総ページ数 18
3. 書名 Widening Participation in the Context of Economic and Social Change	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高屋 定美 (Takaya Sadayoshi) (60236362)	関西大学・商学部・教授 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	univ. in Denver	anonymous due to the research theme	